

現状と課題

生涯学習の基礎教育機関である学校には、学ぶ意欲の低下や学力格差、いじめや不登校、規範意識の低下、生活習慣の乱れといった様々な問題がある中で、子どもたち一人ひとりが、時代や社会の変化に対応して、たくましく生きることができる力を育成することが求められています。

幼稚園について

・子育て世帯を中心とした人口増加が続いている本市では、公私が連携して入園を希望する全ての幼児の受入と幼稚園教育の充実に努めてきましたが、地域の幼児教育センターとしての幼稚園の役割を明確にし、子育て支援機能の更なる充実に努める必要があります。

小・中学校について

・平成19年4月より、障害のある児童・生徒に対する教育については、これまでの障害児教育から、特別支援教育への転換が図られ、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、きめ細かな教育的支援を行うための体制の整備及び必要な取り組みが急がれます。
 ・新しい学習指導要領の完全実施に向けた取り組みと「確かな学力」の定着を目指した教育課程の編成及び学力向上に向けたさらなる取り組みが必要です。
 ・教育情報化社会への対応として普通教室への校内LANの整備、児童生徒用コンピュータの充実、Web学習システムに係るソフトの開発に取り組んでいます。

高等学校について

・学びたいことが学べる学校を選択できる新しい選抜制度（複数志願選抜・特色選抜）の導入に伴い、市立高等学校においてもこれまで以上に生徒の多様なニーズに対応できる魅力ある学校づくりが求められています。

【Web学習システム】

自主的な繰り返し学習のために（反復練習）
 パソコンを利用し、楽しみながら取り組める学習コンテンツの作成
 意欲づけのために（意欲の継続）
 進級制（20級～1級）と、市教委からの「認定証」の発行
 学校と家庭との学習連携のために（家庭学習の充実）
 インターネット上に公開し、家庭での学習が可能



EduNet利用状況

	H16	H17	H18	H19
EduNetトップページログイン回数	33,575	39,257	38,820	42,000

基本方針

育ちや学びの連続性を踏まえ、「確かな学力の定着」「豊かな心の醸成」「健やかな体づくり」を基本に、子ども一人ひとりの発達に応じた学習環境の充実に努めます。

主要な施策展開

(1) 幼稚園教育の充実

社会の変化に対応した子育て支援など、地域の幼児教育のセンターとしての役割を果たしながら、育ちや学びの連続性・一貫性を踏まえた幼児教育を提供するために、私立幼稚園、保育所、小学校との連携を促進した「協同的な学び」の充実に努めます。

(2) 小・中学校教育の充実

確かな学力の定着 各教科については、基礎基本を徹底し、基礎学力の向上を図ります。また、教科学習における、発展的学習、総合的な学習の時間などを中心とした体験学習などを重視していきます。さらに、市独自の施策として、学力向上アクションプラン、ALTや地域人材の積極的な活用、ICTを活用した授業改善や校務の効率化、Web学習システムに係るソフト開発などの情報ネットワークの充実、放課後の学習支援として、チャレンジサポーターの派遣等に努めていきます。

健やかな体の育成 子どもたちが、生涯にわたって自分の健康を自分で保持増進することができるよう、楽しみながら体を動かす習慣や、基本的な生活習慣・食習慣の確立を図ります。

豊かな心の育成 いのちの尊さを理解し、自分の大切さとともに他の人の大切さを認める心、他人を思いやる心を育むため、心の教育と人権教育を推進します。また、環境学習や食育などをとおして感謝の心を育むとともに、トライやる・ウィークなどの感動や充実感を味わえる活動を通じて、子どもたちの豊かな感性や社会性、協調性を育てていきます。

いじめや不登校等への対応 児童生徒一人ひとりの内面理解を深めるとともに、スクールカウンセラーや関係機関・家庭・地域社会とも連携し、総合教育センターの教育相談や、学校復帰のための適応指導教室、在家庭学習支援システムなどの充実に努めます。

(3) 高等学校教育の充実

県立高等学校とも連携し、多様な魅力ある学校づくりを進めます。とりわけ市立高校においては、生徒一人ひとりのニーズや進路に応じたカリキュラムの編成と、大学などと連携した教育プログラムの充実に努めます。

(4) 特別支援教育の推進

障害のある児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて適切な教育支援を行う特別支援教育を充実するために、個別の指導計画を作成し、特別支援教育支援員、専門医、教育相談員などで構成する「西宮専門家チーム」による支援を充実します。また、保護者に対し、特別支援教育についての啓発活動を進めます。

市民一人ひとりの活動

学校教育に関心をもち、学校公開や行事に積極的に参加する。

まちづくり指標

<指標の考え方>

基礎・基本の学力や豊かな感受性を育むため、児童期における読書活動を重点指標に位置付けて取り組みを進めます。また、応用力や情報化社会に対応できる力の育成が重要であることから、各学校への情報機器の整備を推進し、学びの質を高めます。

重点	指標名	単位	現状値 (H19)	目標値 (H30)	指標方向
小学校図書館における児童一人当たりの年間貸出冊数	冊		40.8	53.0	▲
	式		西宮市蔵書管理システムを活用した一人当たりの年間貸出し冊数		
H30目標値の設定理由			週1.5冊程度の本とのふれあいを目標に設定 1.5冊×35週 53冊		
パソコン1台当たり児童生徒数	台		10.7	3.6	▲
	式		全児童生徒数 / 教育用パソコンの台数		
H30目標値の設定理由			国の基準を参考に1台当たり児童生徒3.6人の割合を目標に設定		
西宮専門家チームによる相談事業	%		-	100.0	▲
	式		相談済学校数 / 相談を希望する学校数		
H30目標値の設定理由			相談を希望する全学校での実施を目指します。		

「学校」とは、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校をさします。